

# マリンストアニュース

YAMAHA MARINE STORE NEWS

No.53 '87-1

実践一番

情報量が信頼のバロメーター

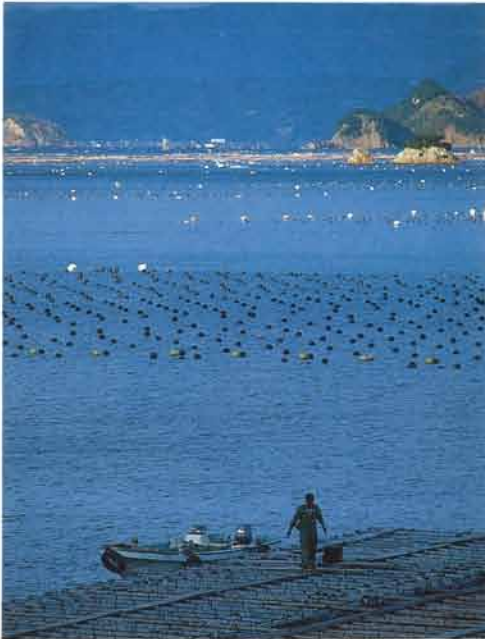
真珠養殖業を支えるW-23DF-1





# 実践一番

実践一番第2回は、愛媛県宇和島の伊井自転車店さんの登場です。全国一の生産高を誇る宇和海の真珠養殖。リアス式海岸の穏やかな海に浮かぶ養殖イカダをぬうようにして走る和船・W23DF1は、頼りになる足として養殖業者の方の人気を集めています。



びっしり並んだ養殖イカダ。アコヤ貝の成長に合わせて、その場所を移します。



作業場から沖のイカダへ、イカダから作業場へ、アコヤ貝のカゴを積み込んだW-23DF1はよきパートナーです。



真珠養殖に加え、ハマチの養殖も増えてきました。

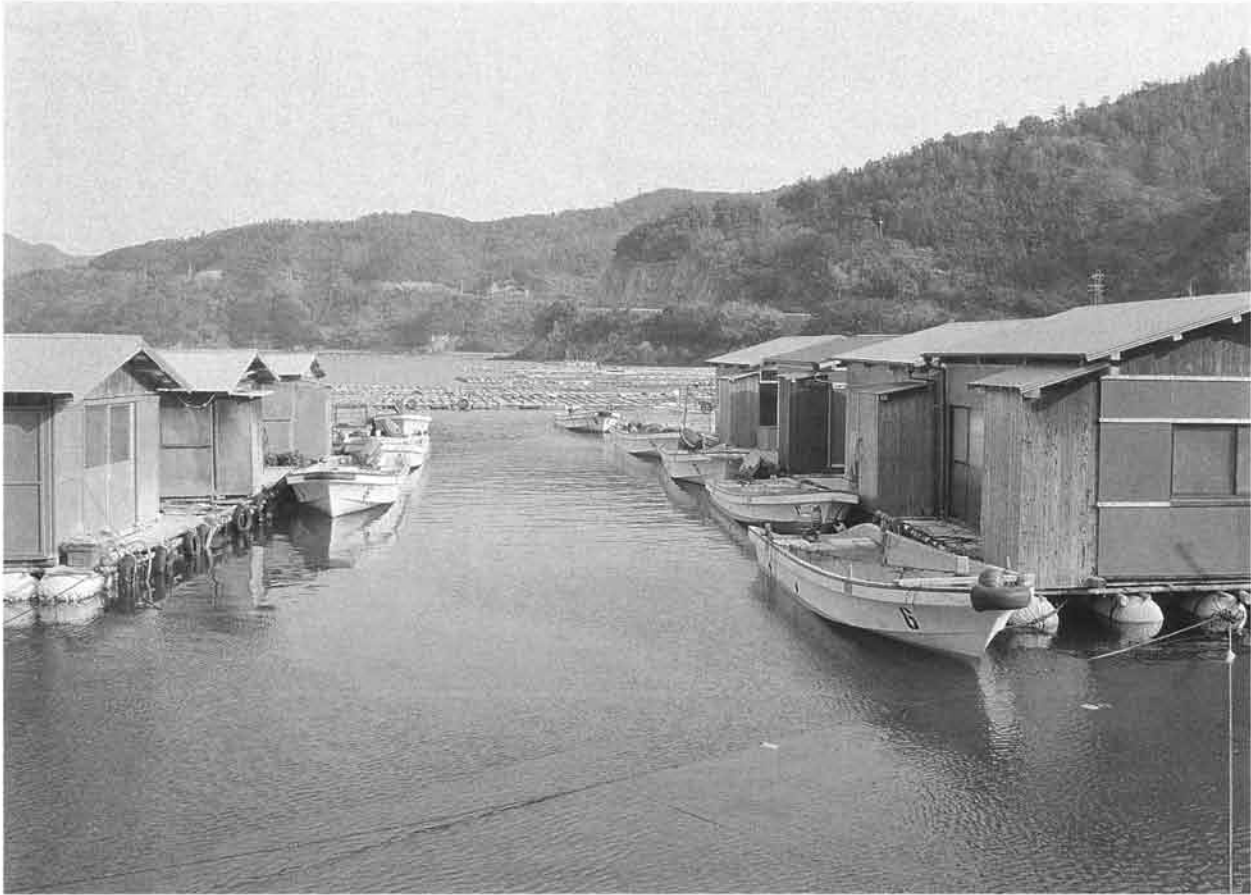


## ■表紙のひとこと■

宇和海の真珠養殖で活躍するW23DF1。世界に名だたるわが国の真珠、その仕事に携わっている養殖業者のみなさんと、伊井自転車店のご主人・伊井栄治さん(中央)です。



W-23DF、そしてW-23DF-1が並ぶ、ここは“玉入れさん”が多いところです。



# 真珠養殖業を支える W-23DF-1

愛媛県南宇和郡・伊井自転車店／伊井栄治さん



母貝養殖のイカダが並ぶ内海村。イカダの沖側に建っているのが作業場で、アコヤ貝を洗ったり、カゴを換えたりします。



稚貝を養殖しているカゴには貝の間に杉の葉がはさま込んであります。

「月のしずく」とか「人魚の涙」など、その形容はいろいろありますが、本物を目の前にすると、神秘的な輝きを放つ真珠の美しさを、それぞれに言い当てているように思えます。真珠養殖は日本人が開発した日本独特のもので、毎夏おこなわれるクルーザーのビッグレース「鳥羽パールレース」のように大会の冠になるなど、真珠といえば鳥羽というほどに三重の真珠は全国的に有名ですが、生産高では愛媛県の宇和島が昭和53年以来トップの座にあります。

真珠養殖は、アコヤ貝の子貝を採取することから始まり、その稚貝を母貝に育て、母貝に真珠の核となる玉を入れ、さらに貝を育ててようやく真珠をとり出すまで、約4年もの時を必要とするのです。

この真珠養殖業は、「母貝屋さん」と「玉入れさん」の二つによって成り立っているといえます。母貝屋さんはアコヤ貝の子貝を採取し、真珠の核となる玉を入れることのできるくらいまでに育てます。ここまで2〜3年、30〜60g、眼鏡レンズくらいの大きさです。これを「玉入れさん」が買いとり、玉入れと呼ばれる核を入れる作業をおこない、さらに2年間育てます。

アコヤ貝を採り、真珠として市場に出すまで、その間の作業のほとんどが手仕事です。「母貝屋さん」も「玉入れさん」も、丹精こめて貝を育てます。



# 生産高日本一 真珠養殖を支えるパートナー W-23DF-1

四国西端、愛媛県の宇和海で真珠養殖が始められたのは、明治40年のことです。以来、年々生産量を伸ばし、昭和53年には二、〇〇〇kgの生産高を記録し、全国一になりました。

かつて伊予国といわれ、その南部にあるのが南予と呼ばれる宇和島周辺。宇和海に面した真珠養殖を主体とした漁業協同組合は、北から宇和島、吉田、津島、内海、御荘の5つがあります。

伊井栄治さんが内海でご商売を始めたのは11年前。そもそもは自転車店としてスタートしたのですが、目の前が港ということでも、海の仕事にも手をひろげてきました。

内海では稚貝・母貝養殖が主で、漁協組合員数は513（正準合計）名。そのほとんどが、伊井自転車店さんのある家串の浜に作業場をもち、養殖の仕事をしています。

伊井さんの主なお客さまは、もちろんそうした稚貝・母貝養殖業の方たちです。伊井さ



W-23DF-1。出航に、船部のもの入れなど、細かい配慮が好評です。また、パワのフェンダー、作業時にロープをひっかけるツノなど、ユーザーさんとの日頃のおつきあいの中から生まれたアイデアが活かされています。



南予地方の14店のマリンストアさんと南予オートセンターさんが作ったチラシ。B4サイズで裏表ともカラーの豪華版です。ズラリと並んだ和船ラインナップは、14〜35呎までの人気艇種を網羅しています。

W-14CH	W-16M	W-20F	W-22FF-50
W-17AR(S)	W-19M(S)	W-220F	W-23DF
W-20DF	W-220F-1	W-21FA	W-30F
W-23FF-S	W-230F-1	W-30F	W-35F
W-200F OH	W-200F-1	W-200F-1	W-200F-1

ヤマハ船外機  
300馬力  
300馬力  
300馬力

**マリン時計  
プレゼントセール**

Present  
ヤマハ船外機お買い上げの方に無料でヤマハオリジナルマリン腕時計をプレゼント!

世界の海を駆けるヤマハの技術

津島マリン  
津島町田之浜  
☎(0895)5-0330

清家自転車店  
津島町  
☎(0895)5-0038

伊井自転車店  
内海町家串  
☎(0895)5-0679

西海モーターズ  
西海町船場  
☎(0895)2-0057

曾我部農機  
宇和島市丸之内  
☎(0895)25-3111

森下工機  
宇和島市保良  
☎(0895)27-1585

高橋自転車  
津島町  
☎(0895)2-0000

都築自動車  
津島町  
☎(0895)2-0000

田中自動車  
津島町  
☎(0895)2-0000

山下自動車  
津島町  
☎(0895)2-0000

未広モーターズ  
宇和島市和歌山町  
☎(0895)22-5450

伊予エンジンサービス  
宇和島市12-2  
☎(0895)27-2110

# J-18B 徳島・しらすウナギ漁に タフな和船登場

四国山地をはさんで宇和島とはちょうど反対側、四国の東端に位置する徳島では、しらすウナギ漁に活躍するJ-18Sが漁師の方々から好評を得てきました。

しらすウナギ漁の季節は、12月15日から4月30日ごろまでで、川を溯ってきたしらすウナギを、夜間に、網を使って獲るものです。しらすウナギは、ウナギの稚魚で、体長は約6cm、透き通った体をしています。

このしらすウナギ漁は搭載エンジンや発電機など、年々大型化の傾向にあります。それら漁業機器の充実に伴い、船本体についての改良を要望する声があがってきました。



そこでユーザーのみなさまのご意見をうかがい、J-18Sをベースに誕生したのが、J-18Bです。J-18Sの艀部の幅を広げるこ

とにより、積載量の増大に対応し、さらに作業時の安定性も向上。また、高速時の旋回性能、走航ドリムの向上のために、キールの掘り込みをとりました。

## 地域向け開発 市場に合った和船を

このJ-18Bは、地元の各特約店さんとマリンストアさんのご意見をもとに開発されたものです。浜を歩き、漁師さんの声を聞き、市場に合った和船を造るための、マリンストアさんの日頃の地道な活動の成果ともいえるのではないのでしょうか。11月におこなわれた試乗会には、マリンストアさんをはじめ、多くの漁師の方々が参加し、乗り心地も上々と、タフで小まわりの効く和船の登場に大きな期待が寄せられています。

んの店先からは、竹を組んだものや浮きを繋いだイカダが湾曲した海岸線から沖に向ってびっしりと並んでいるのが見えます。イカダと浜にある作業場とを往復に活躍するのがW-23DF-1です。

「昭和53・4年ごろからFRP艇が増えてきました。脚の速さはもちろん、作業時の安定性も木船に負けませんから、波があるときでも潮をかぶらない。そうした評判が広まっていったのでしょね」19F1から20F2、22KF、23DF、そしてこの23DF-1と内海を走る和船は順に大きくなってきました。

それは、船外機の性能が向上するとともに、船の大型化、作業性能のアップを求める声にこたえてきた結果といえるでしょう。

内海の母貝屋さんの多くは、22、23、25呎を中心に、一家に1〜3隻の和船をもっています。いま、浜で注目を浴びているのがW-

23DF-1で、これまでの23DFタイプの発展改良型です。

「それまで出艇タイプではW-22KFが人気があったのですが、真珠養殖のイカダの幅を考えると、全幅が1・88の22KFよりも、2・11の23DFのほうが作業がしやすい。それなら23DFをベースに出艇タイプを造ってみようということになったわけです」とご主人の伊井さんが新型和船誕生の発端を話してくれました。

「出艇にしたことで船外機の取り扱いが楽になり、ロープを越してイカダの内に入ることでも手軽にできるようになりました。係留中には船外機の保護にも役立つしね」と新型和船を7月に進水された浅野喜男さん。

出艇のほか、船首部に物入れを設け収納スペースを拡大したことも、合羽などを燃料タンクやバッテリーと区別しておけるので好評

です。

12月末から2月半ばごろまで、アコヤ貝の活動が弱まり、養殖作業もひと息つく季節、間もなく伊井さんにとっては船外機の修理やオーバーホールに忙しくなるときを迎えます。

「2月がわれわれの商売のスタートといえますね。まず巡回サービスのために港をまわり、3月に入ってから技術や安全の講習会を開きます。そうしたなかで、お客さまの意見をなるべくたくさん聞き、商品のなかにどう活かしていけるか考えるわけです。南子オートセンターさんが中心になってつくるチラシも、この時期に合わせて配ります。真珠の街といえるほど養殖の仕事についている人が多いところですから情報は多い。それを交通整理して次のシーズンに備える、この二、三ヶ月が勝負ですね」白い息を吐きながら、伊井さんはまた浜に出かけていきました。



“潮かぜトーク”はみなさまのページです。苦言、提言、お客さまの声など、どうぞお聞かせください。

## スノーモビルで出漁

春から秋までは、ホタテ養殖作業のヤマハ船やドライブ船が多数行き交う北海道・サロマ湖ですが、毎年、2月のはじめから2ヵ月間は、船にかわってヤマハのスノーモビルが湖上を走ります。

氷がはったサロマ湖で、氷に穴をあけ、コマイやカレイやチカなどを網で獲る“氷下漁”をするこのスノーモビル。湖に氷がはる冬場はホタテ作業はなく、ひまつぶしもかねて行うのがこの漁で約100台のスノーモビルが出漁します。

「除雪機やスノーモビルなどの冬期商品も店頭のリナナップのひとつとして並んでいます。」と語る「押野商会」さん（佐呂間町）や「諸岡商会(株)」（佐久間町）がその販売やアフターサービスにあたってくれています。



## バス・フィッシングのノウハウは息子から盗め

久保木邦明(16)君は、茨城県潮来町に住む釣り好きの高校生。お父さんの会社の2階のクラブハウスを使っている、バス・フィッシング・クラブにも入会しています。「霞ヶ浦でバスが釣れしたのはつい最近



のこと。私の小さい時分にはそんな魚はいなかった。釣りはやったが今大人気のバス・フィッシングほどに恰好いいものではなかった。

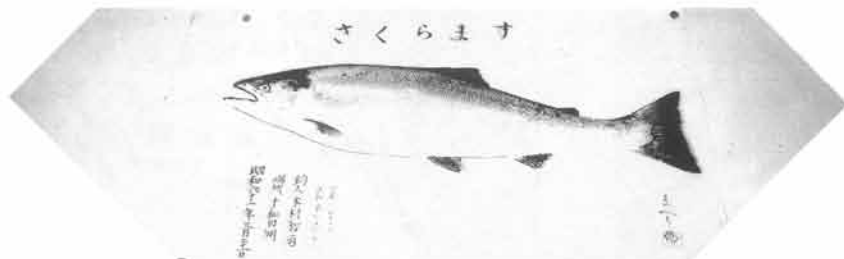
バス・ファンが増え、ポートや船外機が売れだしたのは店の商売にとっても結構なことだが、売る本人がバス・フィッシングを知らないことには、どうも今ひとつピンとこないで……」とは、お父さんの久保木文雄さん、本誌の別項のページでもご登場いただいた“水郷ポートサービス”の社長さんの弁。

かくて邦明君は、ご本人が知らないうちにお父さんの情報戦に参加させられているようです。

## 58センチ、2.47キロのさくらマス

青森県・十和田湖のヒメマス釣りは、7月10日から20日までの特別解禁日を含め、10月1日から翌年の6月20日までの期間がシーズンです。

「ヒメマスは刺身でも、焼いても煮ても旨いんだよね」と話すのは八戸の三浦輪業商会・三浦健至さん。



「今ごろの寒いときでも、好きな人は雪をかきわけて船を出す。それでもけっこう釣れますよ。今まではちょっと小ぶりのものしかあがらないようですが、大物の手ごたえはあるようですから、これからが期待できますね。

毎年4月下旬に〈ニューフィッシングクラブ〉という釣りクラブの方々と一緒に1泊2日の釣り大会を開きます。昨春に私が釣りあげた、このさくらマスを上回るものが出るかどうか、今から楽しみです」

ご自慢のさくらマスの魚拓を送ってくれました。

## サービス代金の回収に妙案は？

「和船や船外機の本体販売については、最近ほとんど現金やクレジット払いとなり、昔のように資金繰りで悩むということはなくなりました。

しかし、サービス代金についてはこちらの方にも“なるべくサービスで…”といった気持ちがありますし、お客さんの方にもそれがあって、後払いということが多くなり、日が経つにつれて取りにくくなってしまふということがよくあります。

“ちりも積れば…”で何とか早めにきちんと回収しなければと思っているのですが、なかなか…。こちらでは他のマリンストアさんもこれに困っているようですが、他所ではそんなことはないのでしょうか。上手にやっているお店があったらぜひ教えてほしいですね。

そんな声をときおり耳にしますが、請求書と明細書を小まめに送付するとそうした回収洩れも少なくなるようです。初めのうちは、事務的に思われたり、長年のお客さまには出しづらかったりしますが、次第に受け入れられるようになり、かえてスムーズにしているというお店もあります。新年を迎えたのをきっかけに、みなさまのお店でも始めてみてはいかがでしょうか。



「商売」といっても、営業、接客、サービス、技術……その守備範囲はとても広いものです。「ストア情報」はそうしたマリンストアさんみなさまの、日頃のお仕事ぶりをちょっと拝見、ご商売にかかわる出来事やアイデアをご紹介します。

茨城 当りまえのようだが  
お客のサービスに徹すること



常陸利根川をへだてる水門のある小さな船だまりは冬の日に浴びてひっそりしていました。海洋マリーナさん（茨城県鹿島郡神栖町日川2692-26）のお店は、その船だまりに面しています。潮来から水郷有料道路を通って南下すると神栖町、後背地は鹿島工業地帯です。

社長の池永哲一（38）さん、奥様の美津江（35）さん、ほかに男子従業員が2人います。最近パーソナル無線局を開局されて、安全面からお客さまにもお勧めしているようです。

お店をはじめられて6年になるが、水が近く、仕事の効率化を図ってこ

の場所に移転されて1年1か月、もつとお客さんに知られないといけない。大人風の風貌の池永さんは、とつとつと話されますが、お客さまの気持はなかなか高いようです。

お客さまは、釣り、クルージング、猟期にはバード・シューティングなど多様な趣味をもつ30〜50代、売れ筋商品は20〜23フィートの船外機艇とか、その日もホワイト・エンジンのFISH-17IIIが決まったようです。

お店のモットーは「当然のことながらサービスに徹することです」。現在約20隻を保管中。

岡山 '87モデルでは「FISH-23%」が大人気

プレジャーボートの需要の中心はなんとといっても釣り用、という岡山県。毎年、ヤマハの新艇が発表されると、お客さまやマリンストアさんたちの関心は、やはりフィッシング用のボートに多く集まりますが、昨年9月に発表された'87モデルの中では「FISH-23%」がとくに人気を集めており、12月初旬現在で、すでにユーザー渡りした分も含めて、20隻もの注文を県下のマリンストアさんより受けています。

これまで数多く販売されてきた「FISH-17」や「FISH-22」な

どからの代替がその需要の中心。3タイプある船外機使用の中ではHTDX（ハードトップデラックス）の注文が最も多くなっています。

同県では、一昨年の秋から昨年にかけて、ヤマハ86モデルとして発売された「UF-20」が大好評を博し、一年間に50隻以上が販売されましたが、現在の「FISH-23%」の人氣ぶりからみて、同艇の向う一年間の販売隻数は昨年の「UF-20」を上回る数になるものと予想されています。

東京 新店オープンでますます充実

東京都下、多摩川の近くにあるマリンストアさん（サートイクルー）のお店は'86年の4月にオープンしたばかりです。ご自慢はブルー一色の建物と、廃物を利用した自作の燈台。「なにしろ海には縁遠い土地柄ですからね、思いきり潮気を効かせました」と店主の麦島さんもご満足の様子です。

「お客さまの8割はデインギューザー。これからは河川を利用して、ラリーみたいなレースをやりたいと思います。三角コースのレースでは出ると負の人たちも楽しめる、ゲームをしながらセイリングを競うという感じ。駅伝レースとか、スピードレースとか、マークにバンを付けたりして、バン食い競争レースとか。いろいろなアイデアをオフシーズンに練

ついるところです」

また新春早々には地元の家社を訪ねて、ミニヨットイングルームを開催する計画もあるそうで、海のない街に爽やかな潮風を送りこむ、麦島さんの意気込みがうかがわれます。



# 垂水マリンストア



新福幸平さんと奥さまの良子さん

## 茨城 潮来には市場拡大の背景がある 「やるこじがいつばいだ」

水郷ボートサービス㈱（茨城県行方郡潮来町潮来100）さんのお店は、水郷・潮来のどまん中にある。堤防の向うには常陸利根川が流れています。

ポンツーンや繋留枕なども整備されて、逆光の水面にはヤマハ・クルーザーが数隻繋留されていました。陸上保管のボートの運搬、川への揚降には大型フォーク・リフトを使っています。

会長の久保木 和(わ)さんは地元ボート界の草分け的存在。社長の久保木文雄(ぶん)さんとの兄弟コンビの経営は大したものです。お店には子育ても終えられた会長夫人の時子(とき)さん、社長夫人の南海(なみ)さんも顔を揃えての、がっちり意気の合ったファミリー経営陣。ほかに男子従業員4人、女子従業員1人。サービス力と総合



写真上は久保木社長、左は社屋

ことがいつばいある」は社長のお話。まんべんなく売れているが、とくにUF-20、UW-14CH。それに商家の旦那衆の健康づくりに、投網台を持続したヤマハ和船W-17AH Sなどと、かなりユニーク。

## 鹿兒島

### 最も効果のある販促活動は？ 「まだボートを持たないお客さまを釣りに招待する」

桜島の南、垂水市の町中にあるマリンストアさん「新福商会」の新福幸平さんを訪ねて「いろいろな販促活動をされていると思いますが、最も効果のあるものは？」とかがつてみました。新福さんは即座に「ボートを持っていないお客さんを釣りに誘い、楽しませてあげることですね」と応えてくれたものです。

垂水市漁業協同組合の準組合でもある新福さんは忙しい仕事の合間をぬって、年間に何十日も釣りに出かけてます。春はハマチやイサキやイ

## 島

### 「まだボートを持たないお客さまを釣りに招待する」

シダイ、夏はイカ(アオリイカ)、秋はサバやタチウオ、そして冬はタイなどがお目当ての魚となりますが、新福さんはこれらの釣りに、免許取得者やお客さんの知り合いでまだボートを持っていない人たちをよく誘います。

「30尺のドライブ船に2人から4人ぐらいまで乗せて出かけてます。ポイントに着くまで、私はお客さんたちの道具づくりなどをするので、その間、お客さんたちに交替で操船してもらい、釣りとお船の両方の楽

しさを体験してもらおうのです。そうするとお客さんたちは「やっぱり、自分のボートが欲しいな」と思うんです」「実売に結びつく率は？」との質問に、

「10人中、2人ないし3人の方が一年ぐらいの間に買ってくれます」と新福さん。  
「10月から11月にかけてはそんな日が続き、ちょっと疲れ気味です」とも語る新福さんでしたが、これが同店の販促の決め手であることは間違いないようです。

## 神奈川

### 冬こそ、セイリング教室

神奈川県逗子市のマリン・クリエイト・ショップ「スループ・ジョンB」(代表・高安博一さん)の店名は、アメリカのフォークソング・グループ「ビーチボーイズ」のヒットナンバーからとったもの。冬でも陽光いっぱい湘南にピッタリしたうまいネーミングです。

このお店の冬の呼びものは、ディンギー・ユアザーに呼びかけての「セイリング教室」。ボート免許教室への誘客作戦として昨年からはじめ、定員6名で4回実施、その結果5名が4級免許を取得しました。誘客率21パーセント弱、作戦は図にあたってたといえるでしょう。

今年には体験教室的なものから本格的なセイリング・レッスンへ、使用艇はディンギー感覚で乗れるスポーティクルーザーという点から、Y-23

をお客さまから借用。ベースは葉山マリーナです。  
日程は12月と1月の毎土曜・日曜。午前10時に葉山マリーナを出発→江の島ヨットハーバー(昼食)→午後3時に葉山帰港というのがスケジュール。募集方法はディンギー・ユアザーをベースにもつぱらクチコミ、時にはワープロ・チラシを併用しています。

免許教室に結びつけたい。ディンギー・ユアザーの中からクルーザーの共同オーナーを育てたい。未体験者対象にディンギーの販促活動と結びつけたい。……高安さんのプランはまだまだ拡がりそうです。

文中のカットは高安さんご自身がデザインしたマークで、名刺の左隅にもプリントされています。セイルと波をシンボライズしたものです。



力は自慢できるヨ」とは会長のお話。「潮来は町をあげて現代的な水郷のイメージ作りと、活性化に取り組んでいる。市場拡大の背景はある。今年のオイルの販売量、バス・フィッシングやセイルボードなどの新たに開発されたユーズの参入による免許受講者数などを見るかぎりでは、87年は希望が持てる年になりそうだ。店が古いので潜在的ユーズ層の掘り起し、イベントの開催など、やる



## 茨城 お客さまの求めるものを すぐがたちにする

お訪ねした日がバブのオープンだと聞いてびっくりしました。川面を見晴らすペランダのついた、ご自慢のクラブハウスは階上にあります。今回はそこを大改装して夜にはバブとしても使えるようにしたのだそうです。

そうなる社長の黒田豊作(35)さんは店のお客さまで、さしずめ奥様の初枝(33)さんの一人舞台となることでしょう。マリンストアさんの多角経

営というよりは、立派なクラブハウスもそうですが、常にお客さまのニーズをすぐがたちにする、積極的な姿勢は大したものですよ。

水郷マリンスン(茨城県稲敷郡東村西代2853)のお店は、水郷大橋を渡って茨城県に入り潮来へと向う国道51号線沿いにある横利根川に面しています。

お店の特色は、お客さまとの家族ぐるみのおつきあいと言うのもバブ

一つ見てもよくわかります。

ご商売はレジャー6の業務4。

売れ筋商品はボートでは14〜20フィート、船外機は9〜20馬力。川釣りや川を下って銚子から海に出るお客さまが多く、クラブメンバーは地元を中心として関東近県の約40名。保管隻数も約40隻。川への揚げ降しには2.8トンの門型クレーンが活躍しています。

そうしたお世話を、夫婦のほかに男女各1名の従業員さんと合わせて4人でしています。黒田さんのエンジン整備には定評があって、その日も黙々と仕事に取り組んでいました。

## 岡山 阪神圏のボート・ヨットが増えそう マリナー構想が具体的に進展中

中国地方の中で最も東側となる岡山県は、最近、いろいろな面で、阪神圏の一部として変わりつつある」といわれます。

さまざまな業界で関西地区からの進出(店舗・資本等)が見うけられますが、マリナーレジャー業界もそうした傾向にあるようです。

県の東部にあって「日本のエー

海」をキャッチフレーズとする牛窓町(邑久郡)では、数年前から「ベシオン村」づくりを推進。また、県営ヨットハーバーの誘致運動を行っています。

「県全体的にみればマリナー設備はまだまだ貧弱」ともいわれる岡山県ですが、これは逆にいえば、現状に

## 熊本

### ローケーシングのステンレスカバーが好評

九州西部、長崎、佐賀、福岡、熊本の本の4県に囲まれた有明海は、一番深いところでも20mという遠浅です。有明海沿岸では、全域にわたって5〜6km、最も大きなもので9kmの干がたが現われます。

町では、船外機のスクリーンが砂地に届いて削られてしまい、多い人では1年間に8〜9枚もスクリーンを交換するそうです。「ローケーシング、または砂ずりなんていうんですが、そこが削れてしまう。それで考えたのが、ステン



レス製のこうしたカバーです。初めはオヤジがつくっていましたが、最近では僕がやっていますよ」と話すのは小松野機械店さんの次男・雅義さんです。

長浜のノリ養殖に使われている和船は、W-32、35が主ですが、このステンレス製カバーの評判はたちまちに広がっています。

「漁師さんは、他の船を見ていいところがあればすぐに取り入れます。砂ずりば造ってくれ」といって店へ来る漁師さんが多く、いまではこのカバーを付けていない船のほうが少ないくらいでしょう」と雅義さんは話してくれました。

# おかげさまで300万台 <ヤマハ船外機生産300万台感謝記念セール>

'87初荷セール '87初売セール



①年賀ポスター ②初荷のぼり ③ステッカー  
④なつかしの正月遊び道具セット ⑤一合マス  
など

年明けのご商売は、毎年威勢のよい「のぼり」をはためかせた初荷・初売セールで始まりますが、'87年、ウサギ年の年頭は、それに「ヤマハ船外機300万台感謝記念セール」も加わって、いっそう賑やかなスタートになりました。

ご承知のように、ヤマハは1960年に7馬力船外機P-7G/Kを生産して以来、高出力、高耐久性、低燃費など、理想的船外機づくりに力を注ぐとともに、選択性を高める豊富なラインナップづくりと、生産量の拡大に励んでまいりました。

それが、今日の「ヤマハ船外機300万台感謝記念セール」にまで発展することができたのも、マリンスタアの皆様の絶大なご協力があるからこそ深く感謝いたしております。

'87年の商戦に向けてなお一層のご努力をお願いいたします。

※ツール内容、展開方法、実施期間などは、各販社ごとで異なりますので、詳しくは担当販社にお問い合わせください。

## マリンフェスティバル'87

- 第26回東京国際ポートショー／2月11日～15日
- 第2回大阪国際ポートショー／2月20日～23日

ひと足早くマリン気分



お客さまとご一緒にどうぞ

マリンシーズンの開幕を告げるポートショー。前回から「マリンフェスティバル」というタイトルが付き、その内容もさらに充実し、ショウアップされてきているようです。

ヤマハのボート、ヨットをはじめ関連商品も勢ぞろい、もちろん、9月に発売した'87ニューモデルも出展しています。ひと足早くマリン気分を盛り上げるため、お客さまをお誘いのうえ、どうぞご来場ください。また、2月14、15日は、〈東京国際フィッシングショー〉も開催されています。



スタートは春分の日

## メルボルン/大阪 ダブルハンドヨットレース1987 YAMAHA OSAKA CUP

大阪港開港120年を記念しておこなわれる〈ヤマハ大阪カップ〉。地球を南から北へ、10,200kmを2人でメルボルンから大阪までを走破する、世界初の大洋縦断レースのスタートがあと3カ月足らずに迫りました。

現在、日本からの参加は17隻で、うち3隻がヤマハ艇 (Y-35CS、Y-C35CR、Y-R38) です。

スタートは3月21日、春分の日です。みなさまも、日本艇に、ヤマハ艇に、是非声援を送ってください。

●YOCエントリー状況

国名	
日本	17
オーストラリア	19
ニュージーランド	9
アメリカ	5
イギリス	3
フランス	4
西ドイツ	1
デンマーク	1
カナダ	2
合計	61

'86・12月現在

## YAMAHA-25 My lady 0/B 1/B 1/B-S

期待のクルーザー

〈マイレディー〉いよいよ登場

昨秋発表された〈'87ニューモデル〉のなかでも、特に注目を集めていたクルーザー〈ヤマハ-25マイレディー〉がいよいよ発売されます。独立したマリントイレを装備するなど、機能充実、そして画期的な価格で「マイレディー」旋風が起こりそうです。



●主要諸元

	0/B	1/B	1/B-S
全長	7.49 m	7.49 m	7.49 m
全幅	2.74 m	2.74 m	2.74 m
バース数	4	4	4
呼称最大馬力	8ps	9ps	9ps
連続最大馬力	8ps	8ps	8ps
航行区域	沿海	沿海	沿海

(計画値)

なお、このY-25マイレディーをはじめ、'87ニューモデルの主力商品となる、スターエースV、FISH-17III、マリンジェット、セイルボードなどの試乗会を全国各地で開催いたします。みなさま方の地元で開催のおりは、ぜひご来場ください。



# ご利用ください 87販促ツール



'87年のみなさまのご商売をバックアップするチラシとハガキができあがりました。チラシは、ボートの紹介を中心に4種類、和船のラインナップ1種類(各B4サイズ・カラー、裏は白)、そして受けとられたお客さまをマリンスポーツの世界へ誘う美しい写真で構成したハガキも、5種類をご用意いたしました。みなさま方の販売促進活動に、どうぞご利用ください。



★ダイレクトメール  
展示会、試乗会、イベントのご案内など  
幅広くご利用ください。





# ヤマハ初の4ストローク船外機登場

ひと味違ったパワーです

## ヤマハ船外機 F9.9BM



### クリーンな排気

4ストロークエンジンですから、燃料に潤滑オイルを混合する必要はなく、汚れの少ないクリーンな排気です。

### なめらかで安定した低速走航性能

4ストロークエンジンですからトルク特性がフラット。点火プラグの清浄性も高く、長時間にわたる低速運転にも安定した性能を発揮します。

### 静かなエンジン音

耳にやさしい静かなエンジン音も4ストロークならではの、自然環境にも馴染みやすいので使い勝手のよさとあいまって、活動範囲をいっそう広げてくれます。

#### ●主要諸元

シリンダー数	…… 2
総排気量	…… 232cc
最高出力	…… 9.9ps/5,500r.p.m
全長	…… 588mm
全幅	…… 389mm
全高	…… 1,108mm(L)
トランサム高さ	…… 434mm(S) 561mm(L)
重量	…… 41.5kg(S) 42.5kg(L)
始動方式	…… リコイル式ハンドスターター
点火方式	…… C.D.I.(電子進角)
燃料タンク容量	…… 12ℓ

#### ●オプション準備品

スピードメーター、アワーマーター  
デュアルスラストプロペラ

ヤマハ船外機F9.9BMは、さらに優れた特長を備えています。

### 一歩すすんだ クロスフロー方式のOHC

バルブ駆動はレスポンスのよいOHC機構。しかも一歩すすんだクロスフローシステム（下図）として、優れた吸・排気効率を確保しました。パワフルで低燃費な高性能船外機です。



### オートスターターの採用で始動は簡単

ヤマハ船外機初のオートスターターを採用。外気温度に最適の空気吸込量が常に自動的にセットされ、寒冷時でもらくらくスタート、始動操作は簡単です。

### 細かい配慮の親切設計

オイル交換が容易にできるドレンボルトの配置をはじめ、エンジンを守るオイル警告灯はいつでも見やすいフロントパネルに設置しました。

### ハイクオリティ・デザイン

“使い易さ”に徹したコンパクトなボディ、シンプルで斬新なデザインは、数々の特性とともに、ヤマハ船外機にふさわしい完成度といえるでしょう。